

柳原克紀長崎大学病院検査部長に聞く

感染急拡大 どうする 無症状者発見へ検査拡充急務



新型コロナウイルスの感染急拡大の現状について、日本臨床検査医学会の新型コロナウイルスに関する委員長の柳原克紀長崎大学病院検査部長に聞きました。

(聞き手 中祖寅一)

—現在の感染状況の深刻さ、危険性をどう見ていますか。

非常に心配です。感染者数が増えていることだけでなく、基礎疾患のある人や高齢者の感染が増えています。若者に広がった感染が、家庭内感染で広がっています。

若い人であれば、ホテルや自宅での療養で「おとなしくして」という指示が出て、それ以上はないのですが、高齢者や基礎疾患のある人が感染すると重い肺炎になります。そうするとしかるべき医療機関に入院することになりますが、お年寄りの対応になると多くの人手など、いわゆる医療資源をすごととられます。医療機関が手いっぱいになり、新しい患者が入れなくなる。保護・隔離のためのホテルなど療養施設もひっ迫し、感染して本当は保護・隔離すべき方が、市中に残ってしまうことになる。また、検査が必要な人も検査ができないまま社会生活を送ると、新たな感染源になります。

感染が爆発的に急拡大する、いわゆるオーバーシュートになる可能性が高くなります。これをととても懸念しています。

そうなれば一般の医療、心筋梗塞や緊急手術もできなくなります。本当に瀬戸際だと思います。

重症者や死者を減らすことは当然ですが、感染者を減らす対策を強化することがどうしても必要です。

—すでに市中に広がって、感染が加速度的に拡大する可能性がある中でPCR検査の拡大が重要では。

東京では1日の感染者が26日に950人近くになり、もはや個人の感染対策では限界です。新しい対策が必須で、PCR検査の拡充もその一つです。

市中の無症状感染者をきちっと検査で拾い上げ、対応していくことが急務です。私は、初期の段階からPCR検査の拡充、無症状感染者の早期発見をと主張してきました。いま、検査の遅れが市中感染の爆発的拡大につながることを懸念します。

初期の頃から行われてきたクラスター（感染者集団）対策だけでは不十分ですので、無症状者も検査する「アクティブサーベイランス」も積極的に実施すべきです。

(1面のつづき)

感染拡大地域に網張る

—検査拡大のポイントは。

まず感染が拡大している地域に網を張る検査が必要です。網を張るとなると、たくさんの検査を一気にやることになるので、検査の精度管理をしっかりとやり、また陽性者の保護・隔離をどうするのかを決めておくことが重要です。

また共産党も強調していますが、医療機関や介護・福祉施設への定期的な検査を積極的にやるべきです。

東京のように感染が非常に拡大しているところでは、介護・医療機関などリスクのある方（高齢者、基礎疾患のある人）に接する職業の方には徹底すべきです。特に老人保健施設などは、ひとたび感染者が出ると大変なことになるので、職員や入所時の方も含め、積極的な検査をすることは大変有意義だと考えます。

私も東京 i C D C (感染症対策センター) のメンバーですが、例えば東京の世田谷区では、福祉施設への積極検査で無症状感染者を早期に発見して施設内感染を食い止めた事例があり、教訓的です。

市中感染が拡大

—医療機関や老人施設、障害者施設では必死で感染防御対策をしているのに、各地でクラスターが続発しています。

若い方では感染しても症状はなく、どうしてもスキが生まれます。わずかでもスキがあるとそこからウイルスが持ち込まれます。持ち込まれると、老人施設や障害者施設、医療施設では、職員と入所者の身体的接触は避けられず、感染拡大が避けられない。スキがあるといっても、目に見えない市中感染がどんどん広がるもですから単純に責められません。

データを見ると、感染した人を「感染している」と思って診療、介護した看護師などへの感染はまずありません。感染が多いのは、一般の開業医や救急のスタッフなどです。救急の方には余裕もありません。

だからこそ、老人施設や医療機関への定期的な P C R 全員検査を実施し、無症状感染者を早期に発見することが必要です。

—民間の格安検査が普及しています。

個人的に知り得た情報では、一部の非常に安価な検査は精度に問題があり、陽性を少しこぼしている可能性があります。

そこで「陰性」と思って普通に活動してしまうと感染拡大の危険があります。国が検査精度のレベルを監督する必要があります。

また、民間検査で陽性と判定された人が保健所や医療機関に行く保証がないため、そこをコントロールする仕組みをつくる必要もあります。

無症状から急変

—無症状感染者の状態が急変し、死亡するという事例も出ています。

特別の基礎疾患もなく、本当に元気だった方が一晩で急変するということは現実にあります。無症状の人を入院させるのは難しく、とりあえずホテルに入れることは致し方ありませんが、急速に悪くなる可能性があるということを認識しておく必要があります。看護師が健康チェックし、状況変化に応じて連絡を取る仕組みをつくるべきです。無症状から急変するメカニズムはまだ解明されていませんが、基礎疾患がなくても急に重症化することがあるということは、一般の人も知っておいていただきたい。

(2面)

やなぎはら・かつのり 1965年長崎市生まれ。長崎大学医学部卒。米国ネブラスカ大学
研究員を経て、2013年から長崎大学大学院教授（病態解析・診断学）、長崎大学病院検査
部部長。日本臨床検査医学会理事・同学会新型コロナウイルスに関するアドホック委員会

しんぶん赤旗 電子版 2020年12月28日【1面】